

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(70)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(70)—

1. 始めに

前報(69)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ四重奏曲です。

Columbia MS6683

モーツアルト ピアノ四重奏曲 G Minor K478

ピアノ四重奏曲 E-flat Major K493

Mieczykyslaw Horszowsky (ピアノ)

Budabest String Quartet

Joseph Roisman (ヴァイオリン)

Boris Croyt (ヴィオラ)

Misha Shneider (チェロ)

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

Columbia 盤ということで、Columbia、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

ピアノの Mieczykyslaw Horszowsky は、あまり聞きなれないピアニストですが、情緒に流されず、透明度の高い音で淡々と演奏しています。Budabest String Quartet のメンバーも澄んだ音ですっきりとした演奏です。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、ピアノの Mieczyslaw Horszowsky と Budapest String Quartet のメンバーの演奏スタイルがよく分かりました。

以上